

炎症性マーカーを用いた大腸がん患者の予後予測のためのノモグラム開発 および評価について

大腸がん (Colorectal Cancer) は我が国ではがんの中で最も罹患数の多いがんであり、がん死亡では第2位である。UICC (The Union for International Cancer Control) の TNM 分類は現在最も信頼性のある予後予測因子であり、広く使われている。しかし TNM 分類で同じステージであっても患者間で予後は異なり、大腸がん患者の生存や再発を予測する因子が求められている。

過去の研究により、炎症反応ががんの予後に関連していることがわかってきている。これは大腸がんにおいても同様であり、炎症マーカーが大腸がん患者の予後予測因子となるというエビデンスが見つかっている。課題研究では炎症性マーカーを予測因子に含んだ予測モデルを作成し、ノモグラムの開発およびその評価を行うことを目指す。

本抄読会では、大腸がんの予後予測因子となる可能性のある炎症マーカーについてまとめ、またこれまで他で開発された大腸がんの予後を予測するノモグラムについてもまとめたい。課題研究の方針の1つとしては、炎症性マーカーを含んだ予測モデルと炎症性マーカーを含まない予測モデルを構築し、2つのモデル間の性能の差を評価するというものが考えられる。モデル間の識別力の差の指標として NRI が存在するが、NRI については様々な批判的な意見もあり、これらについてまとめ NRI が適切な指標であるかを考えたい。